

CLUB WEEKLY No.0045

よいことのために手を取りあおう

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツォ

水と衛生月間

例会日:2026年3月16日(令和8年3月16日)

会長 平松悦子



今日の例会

2026年3月16日

- 懇談 17:00~17:30
- クラブ協議会 17:30~18:20
- 今日の歌 奉仕の理想
- 出席報告 濱部会員
- ニコニコ発表 濱部会員

18:30~

次回の例会

2026年3月23日

- 第46回例会 オンライン
- 今日の歌 四つのテスト
- 出席報告 青戸会員
- ニコニコ発表 なし
- 卓話 なし

12:30~

会長の時間

ガバナー月信3月号に、今回パキスタンでのポリオワクチン投与活動に「チームポリオジャパン」の一員として参加した際の様子を記事として掲載いただきました。ぜひご覧ください。記事は本文が2ページ、写真が1ページとなっています。実際には写真をたくさん送ったのですが、少し多すぎるということで掲載の際にはいくつか減らしていただきました。

また、子ども食堂の活動についての記事も掲載していただきました。3月号では、上方ロータリークラブの活動が2つの記事として紹介されております。さらに、ロータリー財団の寄付状況も掲載されており、上方ロータリークラブは上位のランクに入っています。この記事をご覧になったパストガバナーをはじめ、いろいろな方から「しっかり活動していますね」とお電話をいただきました。皆さんと今後も引き続き、しっかりと活動を続けていきたいと思っております。

本日、ロータリー財団より「ロータリー財団功労表彰状」をいただきました。財団委員長からご推薦をいただき、2025~26年度ロータリー財団管理委員長のクナーク氏からメールでご連絡をいただきました。昨年度には、ロータリーの最高名誉ともいわれる「超我の奉仕賞」をいただきましたが、続けてこのような賞をいただき、大変うれしく思っております。

また、地区から米山奨学生の受け入れについてクラブへの依頼があり、今年度は36名の奨学生が決まったようですが、その中で上方ロータリークラブには、パキスタン出身で関西大学に通っている学生が来られる予定です。

米山奨学生は、これから2年間クラブでお世話をするようになります。毎月1回、例会に参加していただき、その際に会長から奨学金をお渡しすることになります。クラブの皆さまにもよろしくお願いたします。

米山奨学生は、これから2年間クラブでお世話をするようになります。毎月1回、例会に参加していただき、その際に会長から奨学金をお渡しすることになります。クラブの皆さまにもよろしくお願いたします。

【溝畑 正信】



大阪上方ロータリークラブ

創立:2024年7月22日 例会:第1・3週目は対面・第4週目はオンライン

会長:平松悦子
幹事:久保太公矢
会報資料担当:青戸佳世

【例会場】〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 6-1-55 シェラトン都ホテル大阪
TEL:06-6773-1111 FAX:06-6773-3322
【事務局】〒579-8058 東大阪神田町 3-12 医療法人翔聖会 気付
TEL:080-2026-1803 Mail:osaka.kamigata.r.c@kind.ocn.ne.jp

【中島 勇人会員】



親睦委員会からいつものグルメ会について、次回は4月11日に開催を予定しております。当日はこの4階でIMの会議が午後4時半まで予定されているため、その終了後に開催する方向で検討しております。場所は、ここから近い鶴橋周辺を予定しています。

また、年間スケジュールでは4月に懇親会を予定しておりましたが、12月に開催したクリスマス家族会で親睦委員会の予算をすべて使用しましたので、今回のグルメ会をもって懇親会に代えさせていただきたいと考えております。

ご参加よろしくお願ひいたします。

【竹谷 美和会員】

安田会員には今後もイベントに参加していただきますようお願いいたします。

来年度も子ども食堂を続けていきたいと思っています。濱部会員の思いをどういう形で自分たちが進めていけばいいのかというのは、まだ模索しているところです。自分たちが主催の子ども食堂ができるように、みんなで参加できるような体制にしていけたらいいなとも思っています。すぐに具体的にどういう形にできるかというのは、今後は皆さんと一緒に考えていっていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。



【道木 憲子会員】



これまでギャラリーでお教室をしたり、部屋を貸してお茶やコーヒーをお出ししたりしていましたが、だんだんと負担が大きくなり、続けるのが少し難しくなっていました。今は、知り合いの方に自由に使っていただける場として開放しています。

子ども食堂のような形は少し難しいかなと思っていますが、上方RCの皆さんが会議や話し合いなどで使われるときには、無料でお使いいただいて大丈夫です。

コーヒーくらいでしたら私の方でご用意できますし、時間もだいたい2時間くらいを目安に、気軽に使っていただけたらうれしいです。

【古河 亜紀子会員】

先日、NPOなどさまざまな子ども支援のグループのお話を聞く機会がありました。弁護士の方々が関わっている子どもが逃げ込めるシェルターであったり、クリニッククラウンのように、病院で子どもたちを元気づける道化師のグループなど、それぞれの立場で懸命に活動しておられました。

そうした活動を知る中で、私たちロータリークラブとして何かお手伝いできることはないのか、あるいは個々で子ども食堂のような活動を行っていくのがよいのか、いろいろと考えるようになりました。

まずは、どのようなニーズがあるのか、情報やヒントをアンテナをはって探っていくことが必要ではないかと言うご意見をいただきました。



国際奉仕委員会の安田です。本日はよろしくお願ひいたします。
本日は卓話の機会をいただきました。こちらへ来る途中、車の中で何をお話ししようか一生懸命考えていたのですが、ざっくばらんにお話ししてよいということでしたので、私がロータリーに入会させていただいてから約1年半、もうすぐ2年になろうとするこの期間を振り返りながら、感じたことなどをお話しさせていただきます。

ロータリーという名前は、昔からよく耳にしていました。若い頃には、JCでも一時期活動しておりました。また、ライオンズクラブにも賛助という形で関わっていたことがありますので、こうした奉仕活動については、ある程度は分かっているつもりでおりました。しかし、今回ロータリーに入会させていただき、改めて「自分はここで何ができるのか」「どのように協力していけばよいのか」ということを考えながら、皆さまと一緒に活動させていただいているというのが正直なところ。

私自身、今年で60歳になります。これまで仕事中心の生活をしてきましたが、これからは老後のことも少し考えながら、仕事のペースも少しずつ調整していこうと思っていた時期でもありました。

そんな中で、何か社会の役に立つことができればという思いもあり、ロータリーに入会させていただいたという経緯があります。

また、60歳になってから音楽活動を始めたり、いろいろな方の経験談を聞く中で、「まだまだ自分も頑張っていけるんだな」と感じることができました。こうした話を聞いたことは、私にとって非常に有意義な経験だったと思います。

一方で、ロータリーの組織の仕組みや固有の用語については、まだ十分に理解できていない部分も多いです。例えば、司会進行のことが「SAA」と呼ばれるなど、独特の言葉があり、最初は少し戸惑いました。

ですので、自分で調べたり学んだりしながら、「自分は何をすればよいのか」「司会進行だけで十分なのか」と考えることもあります。その中で、実際にはそれだけではない活動の幅があることに気づき、少しずつ挑戦しながら学ばせていただいているところです。その中で、皆さんの活動を見たり、卓話を聞いたりして、非常に感動したことも多くありました。また、多くの知識も得ることができました。

これまでは、ロータリー以外の活動には、仕事の都合であまり参加できていなかったのですが、入会してからは、やはり会議だけでなく、少しずつ活動にも参加しようと思ひ、最近いくつかの行事に参加させていただきました。

その一つとして、大変興味深い経験がありました。演劇を拝見する機会があり、テーマは沖縄戦争に関するものでした。教科書や話で耳にしたことはあったのですが、実際に演劇で体験することで、感じ方がまったく違うことに気づきました。個人ではなかなか行かないような内容でしたが、この機会をきっかけに見に行くことができ、本当に感動しました。こうした経験を通じて、ロータリーに関わることで、自分では得られない学びや感動があるのだと実感しています。

最近、歳をとって演劇を見ていて、最後の方で一人泣いている場面がありました。そのシーンを見ながら、演劇という形で体現されることで、文章や本だけでは感じられない強い感情を受け取ることができました。

沖縄戦の犠牲者について、本では「アメリカ軍によって殺された」と書かれていますが、実際には沖縄の人々は日本政府の判断によって犠牲になった面もあったのだと、改めて感じました。こうしたリアリティのある表現に触れることで、戦争の悲惨さや平和の尊さを、より深く実感することができました。もちろん、政治や宗教に関する議論は人前で話すべきではないことも承知していますが、私自身はこうした経験を通じて、少しでも平和な世の中が続くことを願わずにはられません。

今回の経験は、個人的にも非常に勉強になりましたし、ロータリーでの活動や学びを通じて、こうした考え方や感覚を皆さんと共有できることは、とても貴重だと思っています。

また、月に一度のグルメ会についても感じたことがあります。実は私、お酒が全く飲めないんです。少し飲むとすぐ顔が赤くなり、その後は青くなって外に出ないといけなくなるので、以前は仕事にするにあたり、こうした飲み会にはあまり参加していませんでした。しかし、久しぶりに皆さんとこうした会に参加してみて、驚いたことがあります。皆さんが自由に自分の考えを話し、飾らずに交流している姿を見て、こうした場の大切さを改めて感じました。

ロータリーと一緒に活動していく中で、「ワンチーム」として取り組むということは、表面的な付き合いではなく、内心をさらけ出し、お互いを理解した上で初めて成り立つのだと思います。そうしてこそ、本当の仲間になれるのだと感じました。

私自身、一人で参加すると皆さんに迷惑をかけてしまうのではないかと思うこともありますが、それでもこうして温かく受け入れていただけることに、大変ありがたく、参加させてもらって本当に良かったと感じています。

次に、俳句の会にも参加させていただきました。私は俳句を作るつもりはなく、あくまで皆さんの様子を見させてもらうためです。まったく縁のない分野ですが、素人でも参加できるという点で、思った以上に面白い体験でした。会では、参加者の俳句を見て、第三者としてその評価や表現を考えるという活動もありました。最近特に感じるのは、日常生活で字を書く機会が減っていることです。全てパソコンで済ませることが多く、手で書くことの大切さを忘れがちになっていました。



俳句の中で「難しい言葉や表現を読み解かねばならないのでは」と思っていたのですが、実際には日常生活の中で感じたことや状況を素直に表現している作品も多く、自分でも理解しやすく、楽しめました。短い句の中に思いを凝縮して表現するという経験は、普段の生活ではなかなか味わえないもので、大変勉強になりました。

こうした普段触れることのなかった活動に参加することで、自分にとって新しい気づきや学びがあり、ロータリー活動の幅も広がることを改めて実感しました。

さらに、会長から「会員50名を目標に」との呼びかけがあり、今後どのように活動を進めていくかを考える機会も増えました。私自身、ロータリーに入会してからのこの1年半ほど、最初は「少しでも皆さんの役に立てれば」という気持ちで、社会奉仕やクラブ活動に参加してきました。しかし、それだけではなく、活動を通じて自分自身にとっても大きなプラスになることを感じています。

入会当初は、何をしたらクラブに貢献できるのか手探りでしたが、今では「こういうことをやりたい」という感覚や方向性も少しずつ見えてきました。奉仕活動を通して、他者への貢献だけでなく、自分自身の学びや成長につながることを実感できるのが、ロータリーの魅力だと思っています。

例えば、子ども食堂の活動です。1回目では、配膳のお手伝いをさせていただきました。2回目には、実務的な作業はありませんでしたが、キリスト教関係の方々のお話を伺いながら、子ども食堂が単に食事を提供する場ではなく、子どもたちが勉強を教わりながら過ごせる学びの場でもあることを知りました。高校生が小学生や中学生に勉強を教えている姿を見ると、単なる食堂ではなく、学習支援や成長の場として運営されていることがよく分かりました。今まで、こうした食堂に来る子どもたちは家庭環境や経済的に少し問題がある方が多いのかな、と漠然と考えていました。しかし、実際に参加してみると、そうした固定観念では捉えきれない、子どもたち一人ひとりの背景や努力、そして関わる大人たちの思いを実感することができました。こうした経験を通して、ロータリーでの奉仕活動は、他者のためだけでなく、自分自身の視野を広げ、学びや気づきを与えてくれる貴重な場であることを改めて感じました。

さらに、子ども食堂の活動を通して感じたことがあります。ここでは、単に子どもたちに食事を提供するだけでなく、勉強の支援も行われています。低学年の子どもたちは勉強の補助を受け、高学年の子どもたちは下の子たちに教えるなど、互いに助け合いながら学んでいます。成績が良かった子やよく頑張った子には、褒めたり、ささやかなお祝いをしたりすることで、努力が評価される環境も作られています。こうした取り組みを見て、「ここには一つの小さな社会ができています」と感じました。子どもたち同士が助け合い、大人たちは必要なサポートを行いながら、学びと生活の場が一体となって運営されているのです。私はこの活動に大変感銘を受け、個人的にお菓子を寄付するなど、何らかの形で協力したいと思いました。単なる寄付ではなく、子どもたちの生活や学びを支えるための関わり方を考えることが重要だと感じています。

この経験を通して、表面的な参加だけでは得られない「奥深さ」や学びがあり、こうした体験ができるのはロータリーに入会して活動しているからこそだと改めて実感しました。

今後の会の運営についても、自分なりに考えるきっかけになっています。こうした経験を通して感じたのは、ロータリーの活動は表面的な参加だけでは得られない奥深さがある、ということです。実際に関わることでしか分からない学びや感動があり、こうした経験はロータリーに入らなければ得られなかっただろうと思います。だからこそ、この活動に参加できて本当に良かったと感じています。

さて、今後のクラブの会員増強についてですが、私自身も他の社長の方々と関わる中で、「何をもちて誘ったらよいか」という点について、正直まだ悩むことがあります。入会してからの1年半ほどは、とにかく寄付とかで少しでも役に立てればという気持ちで、できることをやってきました。しかし、それだけでは不十分で、どうすればより効果的に貢献できるか、ということを考えることやアピールの大切さを最近特に感じています。

昔、私が所属していたJCでは、大きなイベントをクラブ全体で取り組む中で、一体感や連帯感が生まれていました。しかしロータリーでは、活動の多くが個別の担当や小規模な参加になることが多く、クラブ全体としての一体感をどう表現するか、という点に少し疑問を持つことがあります。単に「寄付を集める」「人を集める」だけなら、特に難しいことはありません。しかし、間嶋先生がおっしゃっていたように、単に数を集めるのではなく、しっかりと考えを持ったメンバーと共に活動することが大切だと思います。その考え方には非常に共感しています。

私自身も、どうすればクラブとして、また個人としてより有意義に活動できるかを、日々考えながら取り組んでいます。車の中で考えたり、意見を整理したりすることもあります。こうした考えを共有したり、皆さんで意見交換をする場がもっとあってもよいのではないかと感じています。今日こうして皆さんの前で話すことも、ただ感想を述べるだけでなく、質問形式や意見交換を通じて、さらに深く考えを広げられる場になればと思っています。

入会して1年半、2年の間にさまざまな経験をさせていただき、多くの学びと感動を得ることができました。今後も皆さんと共に活動を深め、学び続けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。